ビルドショタビッチを
カノジョ♂にする方法

俺は、近所の模型店でこの子に出会った・・・
突然、売春を持ちかけてきたのだ・・・
しかも、男の娘・・・

彼はビルドショタビッチ・・・
ガ○プラの改造費を稼ぐため
体を売るビッチボーイ・・・

都市伝説だと思っていた・・・
しかし、実在したのだ・・・
俺は迷わず、彼を買うことにした・・・

そして、あわよくば・・・
カノジョ♂にしてやると思っていた・・・

イ○リ・セ○
「お兄さん、ありがとうございます♡
代金はオプションこみこみで・・・
３万５０００円でーす♡」

イ○リ・セ○
「といっても、お兄さん初めてだから
ちょっとサービスして・・・
３万円に値下げしてあげますね♡」

俺
（手慣れたビッチ臭・・・
いったい、今まで何本チ○ポ・・・）
イ○リ・セ○
「何本チ○ポくわえてきたんだ♡
とか思ってるでしょ♡」
アハッ♡
俺
「え・・・」（こいつ・・・）
イ○リ・セ○
「ニューターイプとかじゃないですよ♡
お兄さんみたいな人の考えてることだいたいわかるんです♡」

イ○リ・セ○
「だってボク・・・もう、５００本以上チ○ポくわえてるんですよ♡
だから、経験でわかるんです♡」
俺
「５００・・・・！？」
イ○リ・セ○
「はい♡模型店で会った人とか♡
学校の生徒ほぼ全員とか♡」
俺
（やべえ・・・ビッチなんてもんじゃねえ。
こいつ女王♂だ・・・
５００人以上のオスを手玉に・・・）

俺
（だが…負けるか！
絶対にこいつを…カノジョ♂にする！）
イ○リ・セ○
「あん…♡
まずはベロキスですか…♡」
ムチュウ…

俺（なんだこれ…やべえ…
ショタビッチの唾液あめえ…
においもすげえ…
メスみたいな臭いすんのに、
オスの臭いも混じってる…
すげえ…ショタビッチすげえ…
こんなの、カノジョ♂にするしかねえ…）
イ○リ・セ○
「ん、ちょっと、はなれて…♡」
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
べちゃ…

イ○リ・セ○
「んっ・・・♡」

俺
（え・・・イった！？
こいつ、キスだけでイった・・・！？）

イ○リ・セ○
「はあ・・・はあ・・・♡
お兄さんのベロキス、よかったよ・・・♡
キスだけでイっちゃった・・・♡」

イ○リ・セ○
「じゃあ…続きはベッドでしよっか♡」

俺
「あ、ああ…」
（違う…こいつ余裕だ…
キスでイッたんじゃねえ…）

イ○リ・セ○
「わーい♡お兄さんもボクに
ハマっちゃうかなあ…楽しみ♡」

俺
（自分でこっそりシコってイった…
俺に、リードしてると思わせるために…）

俺「その前に・・・もう一回・・・・！」
イ○リ・セ○「んっ・・・・♡」
俺（油断したらハマる・・・カノジョ♂にするどころじゃねえ・・・俺が奴隷にされる・・・）
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ブチュウ…

ビルドショタビッチやべえ・・・
俺は、そう思いながらも
イ○リ・セ○をベッドに案内した・・・
絶対に負けねえ・・・
そんな覚悟も決めて・・・
チ○ポをビンビンにしながら・・・

イ○リ・セ○
「それじゃあ、お兄さんのキ○タマ…
食べちゃうね♡」
俺
「あ、ああ…」
(そんなサービス話してたっけ…)
ぐん…
くすぐ

イ○リ・セ○
「んん～～♡」
俺
「!!?」
はむっ…

イ○リ・セ○
「んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」
俺
「おっ、おっ、おおおおお♡」
（やべえ・・・サプライズタマ舐め・・・
このビッチのペースに早速・・・）
シュッ
シュッ
シュッ
ちゅるるる・・・

イ○リ・セ○
「んん～～～～～～っ♡」
ゼッ
ゼッ
くす…♡
俺
「んひいいいいいいっ♡」
（乗せられちまったあああっ……！）

イ○リ・セ○
「んふ…♡
女の子みたいな声…♡」
ドロ…
ドロ…
俺
「あ…あ…」
(やべえ…このビッチ、すげえ…
チ○ポの扱いうますぎるだろ…)

イ○リ・セ○
「お兄さん…
ボクのことカノジョ♂にしようと
思ってるでしょ♡」
俺
「あ…うん…
まあ、わかるよな…」
フフ…

イ○リ・セ○
「お兄さんみたいな人……
いっぱいいたよ♡
でもね、みんな最後は……♡」
俺
「さ……最後は？」
あーんっ♡

イ○リ・セ○
「ボクにね…
お金とチ○ポ汁を差し出すんだ…♡」
俺
「んおおおおおおっ…♡」
ムチュルルル♡
ブチュルル♡
ムチュ♡

イ○リ・セ○
「んあ♡おんあうういい♡」
（ほら♡こんなふうに♡）
俺
「あ・・・あ・・・」
（す、吸われる・・・
チ○ポ汁吸い取られる・・・♡）
ぢゅぱ♡
ぢゅぱ♡
ぢゅぱ♡

イ○リ・セ○
「んく♡んく♡んく♡」
俺
「あああ・・・♡」
（こいつ・・・とんでもねえチ○ポ中毒・・・
なんて美味そうにチ○ポ汁飲むんだ・・・
毎日、何本くらい射精させてんだよ・・・）
ゴク・・・♡
ゴク・・・♡

イ○リ・セ○
「お兄さんのチ○ポ…
けっこういいよ…♡
ねえ、代金サービスするからさ…
喉ま○こ、犯してみない…？」
俺
（…罠か？　でも…！）
プハッ
ハァ…
トロ…

罠だとしても…
踏み込むしかなかった…
引いたらやられる…
心まで犯されて奴隷にされる…
そんな確信があったからだ…

イ○リ・セ○
「んぶっ…♡」
（ほんと、このチ○ポいいなあ…♡
95点くらいはあげてもいいかな…♡）
ガポ…
俺
「は…入った…
根本まで…」

イ○リ・セ○
「んん～～♡んぼっ♡んぼっ♡」
（イラマチオとかできないだろうし・・・
喉ま○こ搾ってミルク出しちゃお・・・♡）
俺
「んひっ！？」
（な・・・なんだこれ・・・喉が、喉が動いて・・・）
ジュルルル♡
ジュルルル♡
ドキン…
ドキン…

イ○リ・セ○
「んぶっ♡んっ、んんー♡」
（鼻から出ちゃった…
すっごい量…♡）
どぴゅ
どぴゅん♡
ブビュ
俺
「あひっ♡」
（今…鼻から出た？
飲み切れなかった？）

イ○リ・セ○
「んぼっ…♡
ちょっと、鼻からでひゃった…♡」
ゴポ
ドロー…
俺
（ミスだ…
ビルドショタビッチもミスをする…
今だ…ここで押し切るんだ…）
「なあ…セックス♂しようぜ…」

イ○リ・セ○
「いいよ…♡
ほら、オスま○こ…
開いてみて♡」
ぱっ
ぱっ

俺「え…「これ…」
ドロリ♡
イ○リ・セ○「ボクのチ○ポミルクだよ♡あさイチで仕込んだからほかとろになってるでしょ」

イ○リ・セ○
「ほら…お兄さん♡
ボクと、お兄さんのミルク…♡」
ドロ…
ハァ♡
ハァ♡
ハァ♡
イ○リ・セ○
「けつま○この中で…
混ぜ混ぜ…しよ♡」

俺
（混ぜ混ぜ…するしかねえ！）
イ○リ・セ○
「ふふ…♡」
（勝った♡これで落ちなかった人、だーれもいないもんね♡）
ヌポッ
くす…

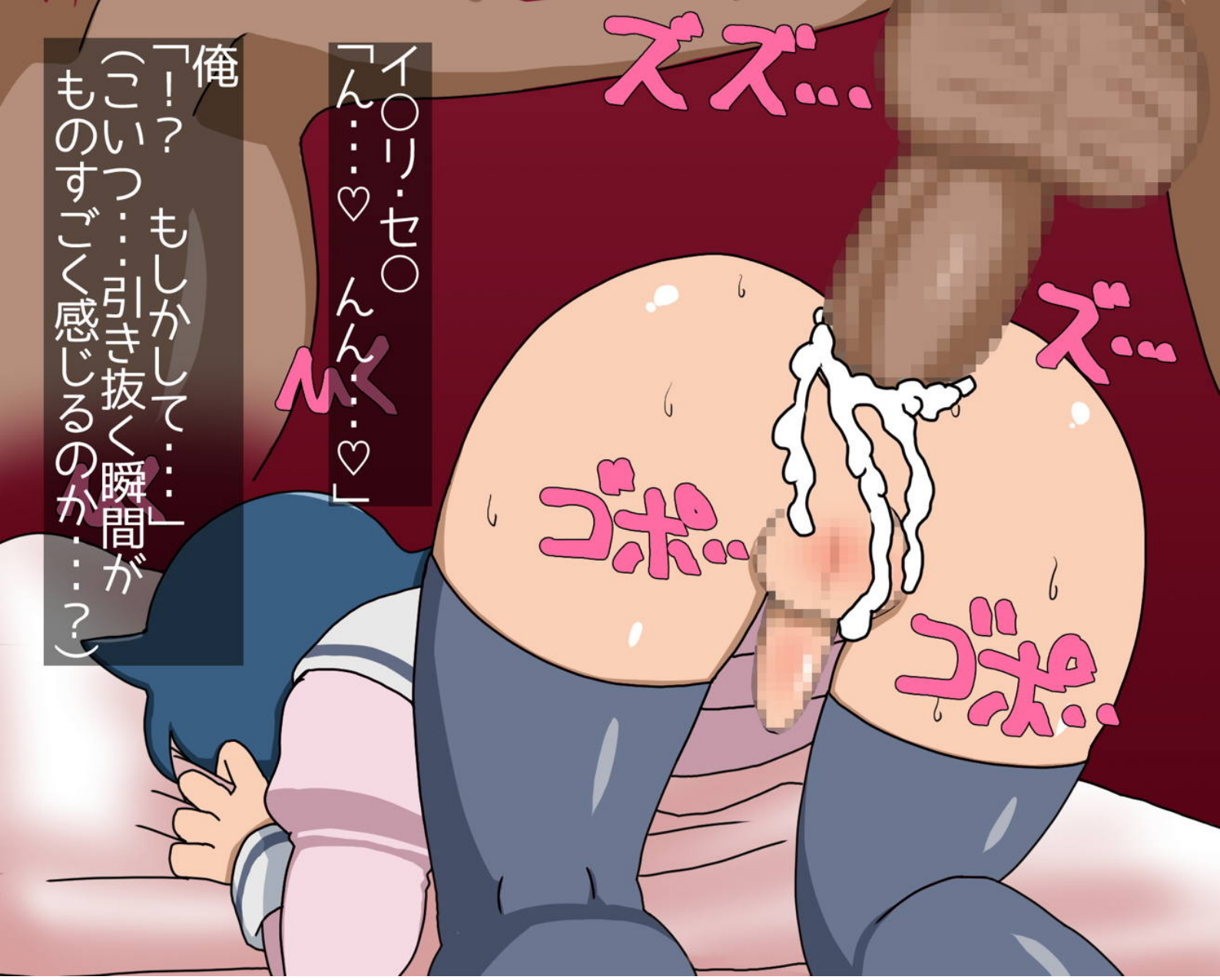
俺「す…すげえ…♡このま○こ、すげえ…♡」
イ○リ・セ○「あは…♡今だけはお兄さんのま○こだよ♡ほら…動いてみて♡」
アハッ♡
きゃ♡
きゃー♡

イ○リ・セ○
「あっ♡あっ♡いいよ♡
その調子で♡あん♡腰振って♡」
俺
（やべえ・・・
リードされまくってる・・・
でも、でも・・・）
ヌッポ♡
ヌッポ♡
ヌッポ♡
ヌッポ♡

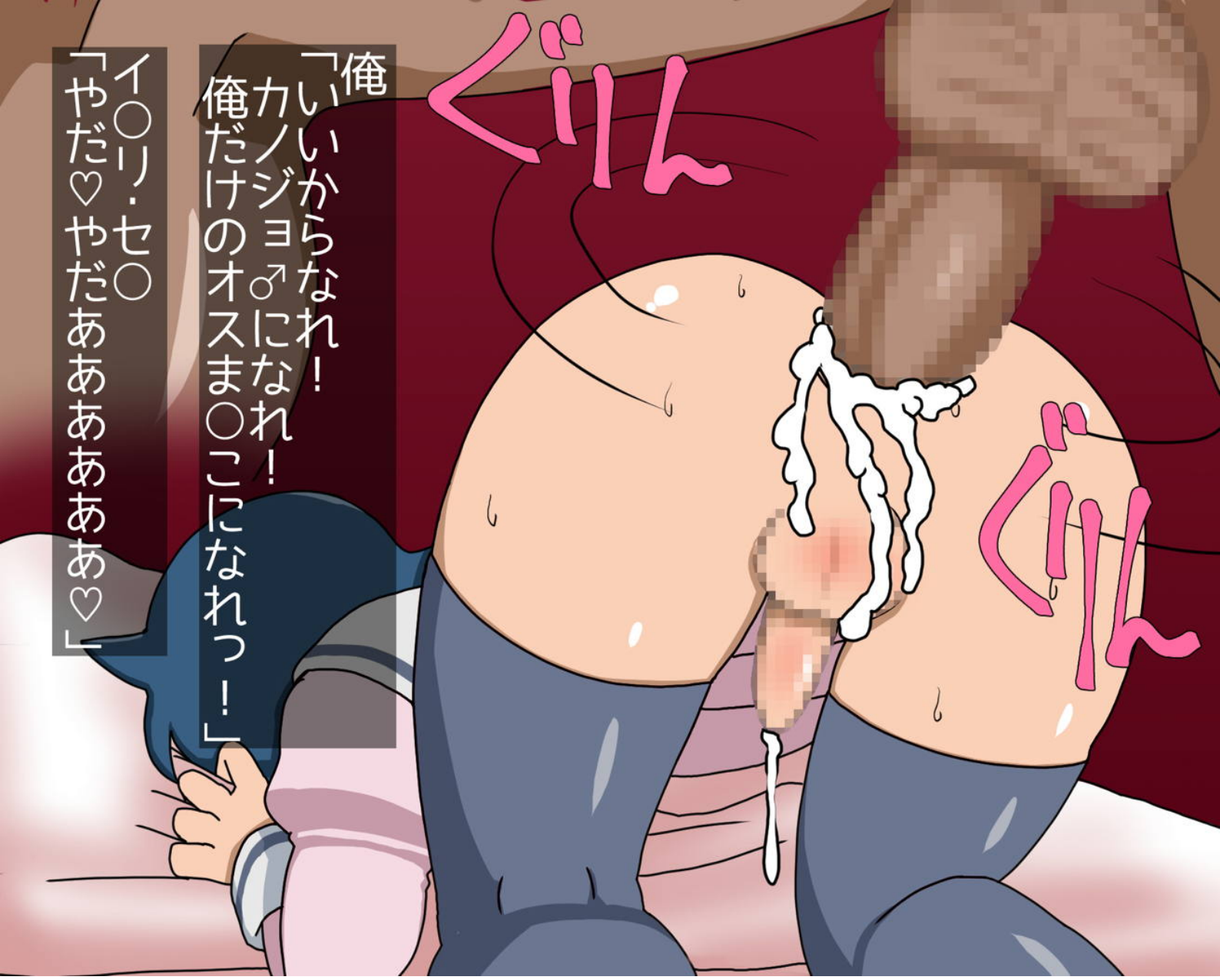
俺「き・・・きもちいいいい・・・♡」
イ○リ・セ○「あん・・・♡お兄さんのミルク♡すごく熱い・・・♡」
どくどく
どぴゅっ♡

イ○リ・セ○
「んっ・・・♡
お兄さん、わかったでしょ♡
ボクをカノジョ♂にするなんて無理♡
でも・・・これからも
おこずかいくれるなら・・・
その時は、会ってあげてもいいよ♡」
フフ・・♡
ドロ・・・

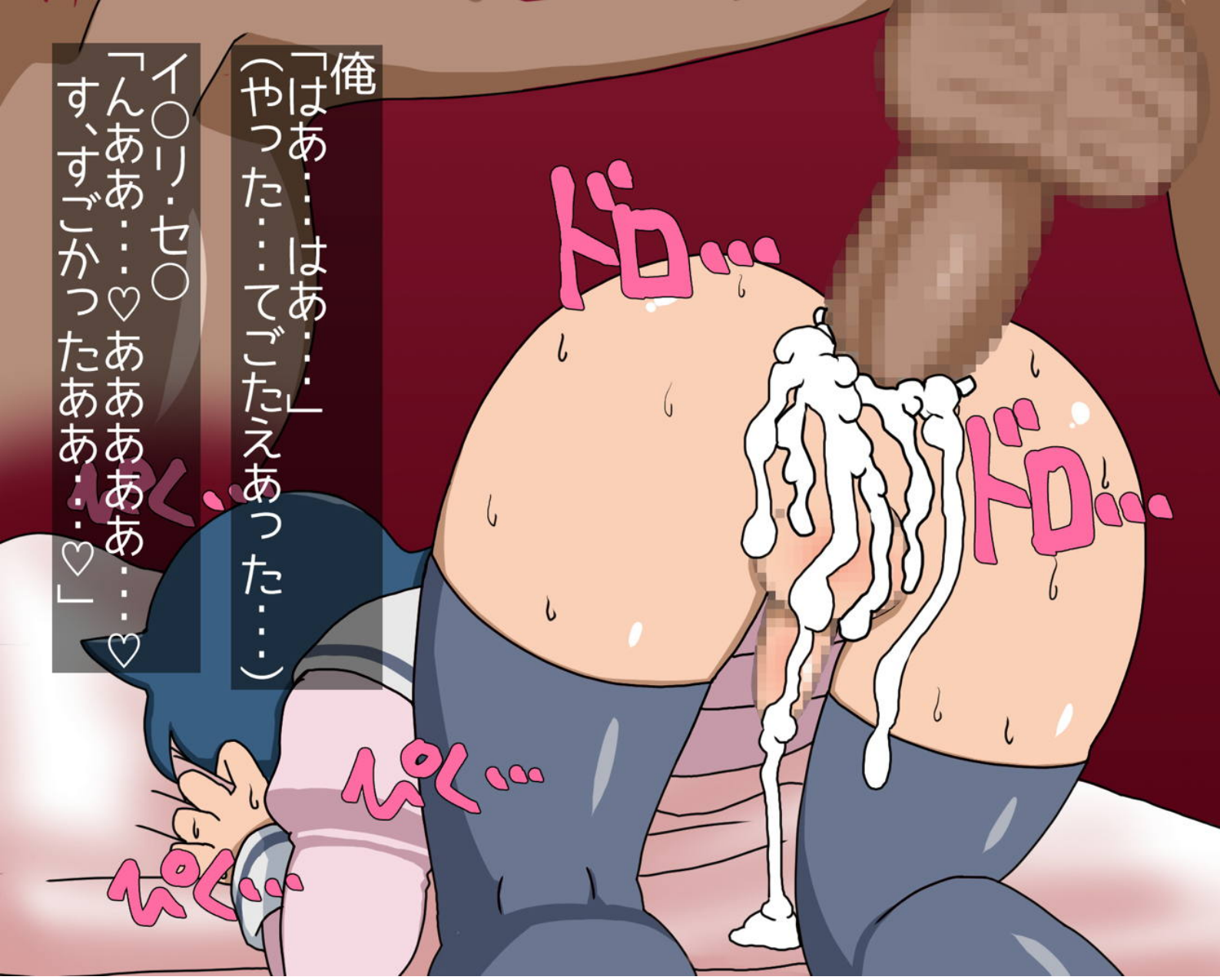
ショタビッチやべえ…
完全に負けた…
奴隷にされる…
金づるにされる…
しかし、逆らえない…
そう思っていた…
だが…
逆転のチャンスは、すぐに来た…


ズズ…
ズ…
ゴポ…
ゴポ…
イ○リ・セ○
「ん…♡ んん…♡」
俺
「！？ もしかして…」
（こいつ…引き抜く瞬間が
ものすごく感じるのか…？）

俺「おい…カノジョ♂になれよ…」
イ○リ・セ○「や…やだ♡は…早く抜いてよ…♡」
ぺく
ぺく
トロ…


ぐりん
ぐりん
俺「いいからなれ！カノジョ♂になれ！俺だけのオスま○こになれっ！」
イ○リ・セ○「やだ♡やだあああああ♡」

どぴゅ
どぴゅ
俺「カノジョ♂になれよおおおっ!」
イ○リ・セ○「あああああああああっ♡」
へくっ
へくっ


俺「はあ…はあ…」
（やった…てごたえあった…）
イ○リ・セ○「んああ…♡あああああ…♡
す、すごかったああ…♡」
ドロ…
ドロ…
ぺろ…
ぺろ…

勝った…
俺はイ○リ・セ○の服を脱がせ…
ティッシュで身を清めてやった…
ここにいるのは、もうビッチじゃない…
俺だけの…俺だけの…
俺だけのカノジョ♂なんだ…！

イ○リ・セ○
「お兄さん…すごかった♡
今まで、あそこでやめてって言ったら
みんなやめたのに…♡」

くぱっ

ビッ

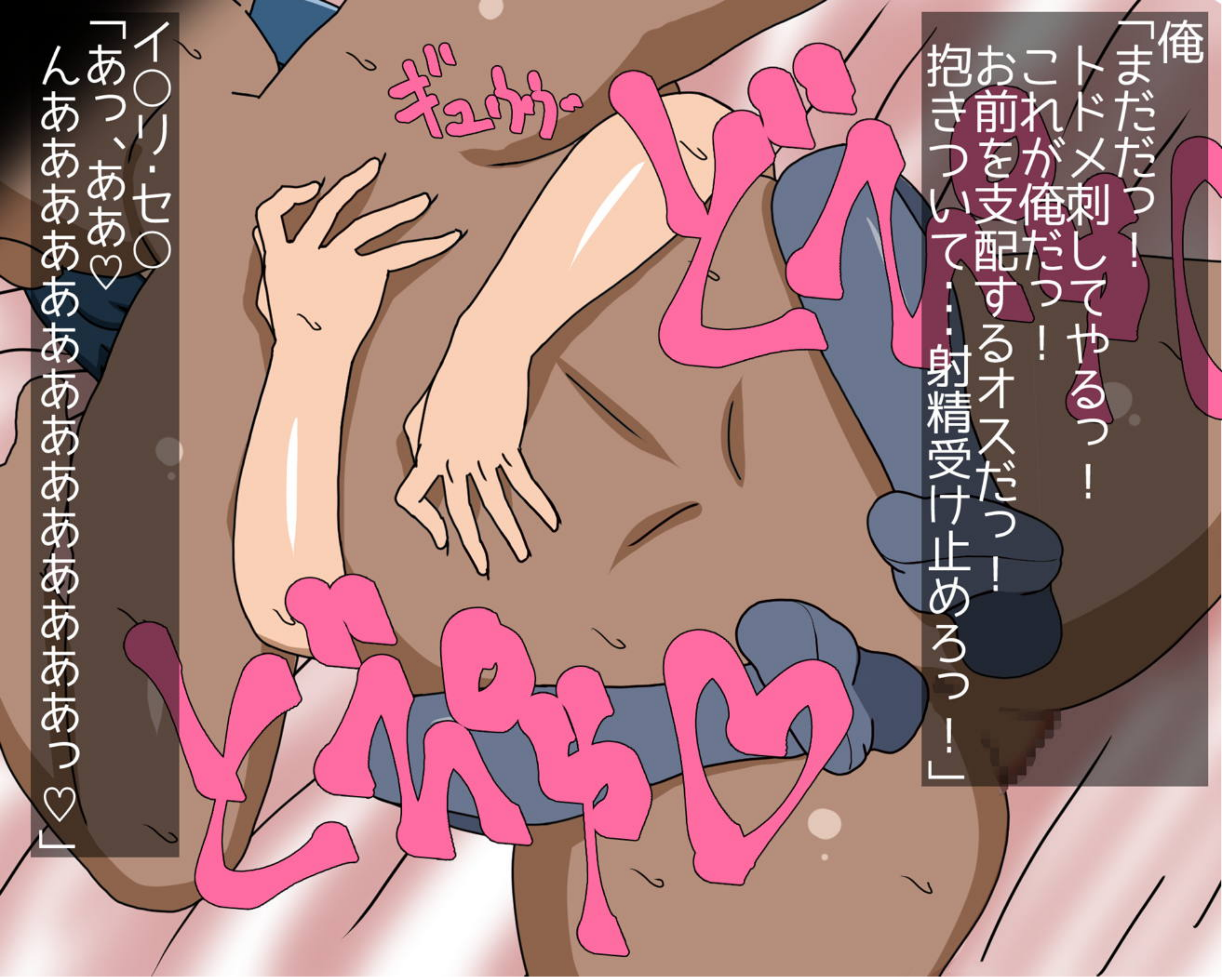
イ○リ・セ○
「ボク…お兄さん支配しきれなかった♡
オンナノコにされちゃったの…♡」

俺「お前はもう俺のカノジョ♂だ…オスま○こも、このキン○マも…」
イ○リ・セ○「はい…♡全部、お兄さんのものです♡」
アハ～
ぐり
ぐり

俺「よし…処女奪ってやる…カノジョ♂になってからはじめての…ほんとのメスになってからはじめての…」
ズブ
ズブ
イ○リ・セ○「うん…♡エッチなんだね…♡」

俺「そうだっ！いくぞっ、セ○っ♡」
イ○リ・セ○「はいっ♡あっ♡あっあっ♡あああ♡」
ズプ♡
ズプ♡
ズプ♡

イ○リ・セ○
「ああっ♡あつい♡
お兄さんのミルク…あついよお♡」
どぱっ
どぱっ
イ○リ・セ○
「ああ…感じるう…♡」



俺
「まだだっ！トドメ刺してやるっ！これが俺だっ！お前を支配するオスだっ！抱きついて…射精受け止めろっ！」
ギュゥゥゥ
どぴゅ
どぴゅ♡
イ○リ・セ○
「あっ、ああ♡んああああああああああああっ♡」

俺「はあ…はあ…」
（やった…これでもう俺のだ…イ○リ・セ○は完全に…）
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ぺろ…
イ○リ・セ○「あ…♡あああ…♡」

イ○リ・セ○
「お兄さん・・・すごかった♡」
ボク・・・なっちゃったよ♡
お兄さんのカノジョ♂に♡」
俺
「ああ・・・そうだ・・・それにしても・・・
トコロテン射精・・・
胸元まで飛びまくってんな・・・」
トロ…

イ○リ・セ○
「うん・・・♡
乳首にもかかって・・・♡
お兄さんのミルクで
妊娠しちゃったみたい・・・♡」
俺
「させてやるよ・・・
ケツ穴から何度でも・・・
俺のミルク出産させてやる・・・」

こうして俺は…
イ○リ・セ○をカノジョ♂にした…
だが…
５００人以上の奴隷を持つイ○リ・セ○…
彼らとの関係は、簡単には整理できない…
しばらくは秘密の関係を続けながら…
奴隷たちからは、金をしぼりとろう…
二人の明るい未来のために…
そんな話をしながら…
俺とイ○リ・セ○はセックスしていた…

イ○リ・セ○
「ねえ、お兄さん・・・
ボクたちの赤ちゃん・・・作らない？」
俺
「ど、どうやって・・・？
そりゃ、俺だってほしいけど・・・」
ぺろ♡
ズブッ

イ○リ・セ○
「簡単だよ・・・
ボクたち二人で・・・
母さんをめちゃくちゃにレ○プするんだ♡」
俺
「リ○子さんを・・・？
そうか、二人で交互に犯しまくれば・・・」
ぐり
ぐり

イ○リ・セ○
「うん・・・♡
ボクたちのミルクが混ざって・・・♡
一緒になってかあさんの中で・・・」
俺
「赤ちゃんとして育つのか・・・
いいな・・・
想像するだけで・・・」

イ○リ・セ○
「んん♡イっちゃうよね♡」
俺
「ああ…イッちまうな…♡」
どぴゅっ
どぴゅっ

イ○リ・セ○
「はあ…♡はあ…♡
じゃあ、さっそく…♡
帰ったら、かあさんの食事に…
薬を盛っておくから…♡」
俺
「ああ…♡
俺達二人の赤ちゃん…
がんばって作るか…！」
ビクン…
ビクン…

ビルドショタビッチ…
彼らをカノジョ♂にすると…
こんなに、すばらしい世界が待っている…
俺は、このことを記録し…
なんらかのかたちで、ネットに残す…
こんな幸せ…
俺だけでひとりじめできない…
だから、俺以外の誰かも…
自分だけのショタビッチを…
ぜひ、カノジョ♂にしてくれ…
完